

## [成果情報名]障がい者に農作業を円滑に取り組んでもらうためのポイント

[要約]障がい者に農作業を円滑に取り組んでもらうためには、障がい特性に応じた適材適所の人員配置や、使いやすい作業器具の工夫、改良に取り組むとともに、体調の配慮に気を付けることが必要である。

[キーワード]農福連携、障がい者、雇用、ポイント、一対比較

[担当]三重農研・地域連携研究課

[区分]関東東海北陸農業・経営

[分類]行政・参考

---

### [背景・ねらい]

障がい者が地域で働きながら暮らせるように、就労の場や多様な働き方の提供を進めることが重要になっている。農業も障がい者就労の場として位置づけられるとともに、障がい者が農業の新たな担い手となり得ることも期待される。しかし、農業分野で障がい者が就労している事例は少なく、農業経営者に障がい者雇用を勧めるため、あるいは福祉事業所に農業参入を紹介するための情報はきわめて少ない状況にある。

そこで、県内の農業に取り組む福祉事業所および障がい者を雇用している農業経営体への実態調査を通して、農業において障がい者雇用を行ううえで、農作業を円滑に進めるためのポイントを明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 三重県内で障がい者が農業に就労している事業体のうち、表1に示す福祉事業所が農業に参入する11事業所と、障がい者を雇用する農業生産者等（法人・個人）の6事業体に、障がい者雇用で配慮すべき注意点や工夫などを聞き取り調査し、農作業を円滑に取り組んでもらうポイントを階層構造に整理した（図1）。
2. 階層ごとの項目をAHPの重要度計算法による一対比較により相対重要度を算出したところ、L2の階層では「農作業に対する工夫・改善」（0.3653）が最も重視されたものの、ほぼ同程度の重要度になっている。
3. L3の階層では、上位L2の重要度を各々のウェイトとして乗じた総合重要度で全項目において比較すると、「適材適所」、「道具の工夫」、「体調の配慮」等が相対的に重要と評価される（図2）。
4. 福祉事業所が農業参入する場合、就労継続支援B型事業所や生活介護事業所の参入が多いが、表1の売上額で示すように事業所によって生産のレベルの差が大きい。
5. 就労継続支援B型事業所と生活介護事業所の売上額の多い事業所は、障がいの特性に応じた適材適所の人員配置を重視するのに対し、売上額の少ない事業所は道具の工夫を重視している（表2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. ポイントの抽出と階層化は、担い手育成課とともに実施した「農業分野における障がい者就労の事例集」作成のための聞き取り調査の内容を、KJ法の情報整理プロセスにより行った。
2. 実際に障がい者を雇用して農業を行っている事業体への調査結果に基づきポイントを抽出・整理していることから、これから農業において障がい者雇用を考える事業者が参考にできる。ポイントの内容の詳細は上記事例集（Ⅱ部）を参照されたい。

[具体的データ]

表1 調査対象事業所等の概要

No.	事業所の種類	主な農業事業の内容	農業部門 従業員数/障がい者数	農業部門の 売上額(千円)
A	就労継続支援 A型事業所	シイタケ、トマト等	職員7人、パート1人/ 30人(知15、精8、身7)	10,000
B		水耕野菜(リーフレタス、 小松菜、水菜、ネギ等)	職員3人/ 18人(知、精、身)	18,000
C		シイタケ、イチゴ、露地野 菜	職員6人、パート3人/ 31人(知10、精18、身3)	25,000
D	就労継続支援 B型事業所	キュウリ、ミニトマト等	職員8人、パート2人/ 18人	8,900 (494)
E		露地野菜、花苗	職員7人、パート10人/ 35人(知31、精2、身2)	4,500 (129)
F		水耕野菜(レタス、サン チュウ、小松菜)	職員2人、パート2人/ 15人(知10、精4、身1)	600 (40)
G		露地野菜	職員2人、パート2人/ 5人(知5)	600 (120)
H		水耕野菜(リーフレタス)	職員3人/ 15人(知+精14、身1)	4,200 (280)
I		水耕野菜(トマト、ナス、 キュウリ)、露地野菜	職員4人、パート3人/ 19人(知13、重複3、自閉3)	200 (11)
J		生活介護事業所	施設野菜(イチゴ)、露地 野菜、加工(ジャム)等	職員3人、パート1人/ 14人(知14)
K	農業法人	露地野菜、花苗	職員3人、パート6人/ 21人(知17、知+身4)	2,600 (124)
L		花壇苗、切花苗、野菜苗	社員5人、パート19人/ 1人(精1)	18,400
M	農業生産者	施設トマト	経営主・妻2人、パート1人/ 1人(知1)	9,000
N		甘夏	経営主1人/ 2人(精1、てんかん1)	6,000
O		植木(タマリユウ)	職員3人/ 5人(知1、精3、身1)	50,000
P	一般法人	水耕栽培(小松菜、水 菜)	職員2人、パート2人/ 6人(登、知、精)	1,000
Q		露地野菜	社員1人/ 3人(精3)	1,000

注)「農業部門の売上額」のD~Kの( )は障がい者一人あたりの売上額

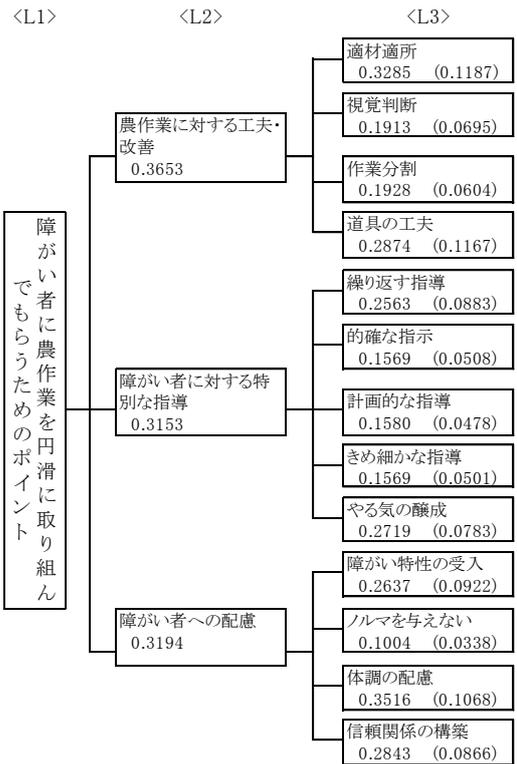


図1 農作業を円滑に進めるポイントの階層構造と相対重要度(平均値)

注) 数値は各ユニットの重要度、( )は総合重要度

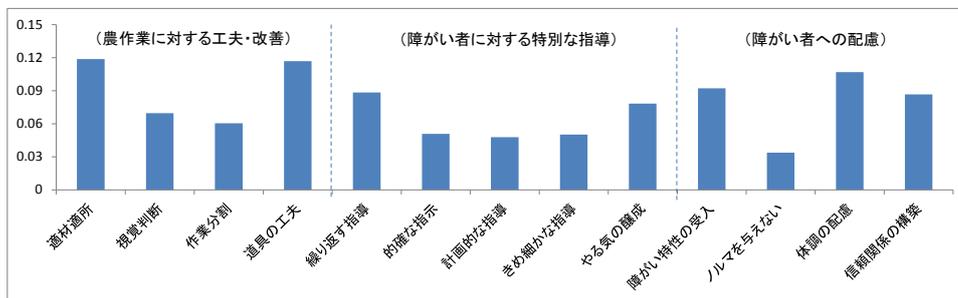


図2 農作業を円滑に取り組んでもらうためのポイントの重要度評価

表2 B型事業所・生活介護事業所における農業部門売上額別の相対重要度

	農作業の工夫・改善				障がい者に対する特別な指導					障がい者への配慮			
	適材適所	視覚判断	作業分割	道具の工夫	繰り返す指導	的確な指示	計画的な指導	きめ細やかな指導	やる気の醸成	障がい特性の受入	ノルマを与えない	体調の配慮	信頼関係の構築
売上額多	0.4305	0.1202	0.2725	0.1769	0.2081	0.1816	0.1062	0.1354	0.3686	0.3172	0.0520	0.2094	0.4213
売上額少	0.1888	0.1872	0.1357	0.4882	0.2816	0.1621	0.1745	0.1660	0.2158	0.2455	0.1986	0.3258	0.2301
	*	-	-	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) 一対比較調査に回答の無かったKを除く、D~Jまでの7事業体を対象とする。

「売上額多」は、障がい者1人あたり25万円以上の農業部門売上額がある3事業所の平均値、「売上額少」は、25万円/人以下の4事業所の平均値。

\*は5%水準で有意に差があることを示す。

(糀谷 齊)

[その他]

研究課題名：障がい者雇用の事例分析による雇用条件の解明

予算区分：県単(執行委任)

研究期間：H24-H27

研究担当者：糀谷 齊、飯場聡子